心と心のつながり《同朋社会の私たち》

法然上人（14）

大原問答まとめ

京都、大原の勝林院の丈六堂でおこなわれた「大原問答」。なかなか学問的で難しいので深入りはしません。法然さまのお答えを二点にまとめてみました。

(1) 八万四千の教えがあるといわれる仏教の中で、どうしてお念仏の教えを弘めるのか。というが、いかに多くの教えや行があっても、煩悩も多く、父母や家族を養うために出家もできず、仏の教えや救いに遇えないものにとっては、念仏の教えは最も優れている。

(2) 仏教には色んな救いが説かれてあるが、それらを一切無視して、念仏を称えるだけで救われるというのはおかしい。といわれるが、念仏はわずか南無阿弥陀仏の六字ではあるが、万徳円満といって、お釈迦さまのすべての教えが込められてある。**万機普益**といって、善人も悪人も賢い人もそうでないものも、老若男女、全世界のあらゆる人々を絶対平等に救う教えであり、救う力をもっている。

(3) 念仏の教えには、お釈迦さまの深い教えの哲学が説かれてない。わずかに救いが説かれるのみ。というが、六字の名号の中に、お釈迦さまが説かれたすべての哲理が封じ込まれてある。そもそも、すべての仏の御心は、苦悩し悲しむ私たち凡夫に、仏の智慧と慈悲により安楽を与え、悟らしめるのが目的であろう。その意味で究極の「大乗円頓」の教えである。かつ、念仏一つという「一仏乗」の絶対の救いである。最も寛容で、かつ深深微妙（教えがとても深く細やか）の教えである。少し難解でしたが、これで終わります。

「正明寺納骨堂」を設置しました。詳しくはお寺までお問い合わせ下さい。